
死ぬなよ

水城由羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

死ぬなよ

【ZPDF】

Z0614E

【作者名】

水城由羅

【あらすじ】

いじめられていた子を見ていたヒロインは・・・

中学の二年生の中から虐められる女の子がいた。

男子からも女子からも、私は虐めには参加しなかつた。だが見て見ぬ振りをしていた。

今考えれば同罪も同じ。

その子は虐められても虐められても毎日きちんと学校に通っていた。

その子にも何人かは友達がいたようだつた。それだからなのか。きっと、私なら途中で不登校になるだろう。

朝礼、席替えで男子と隣になるたびに、隣になつた男子から「最悪だ。」「ジョーカーを引いてしまつた。」などと聞こえよがしに言われていた。

けれど、決して泣かなかつた。

虐められていたせいで俯きがちになつてていたみたいだつたけど瞳の奥の光は失われていなかつた。

すごいと思った。私はそんな強い子になれる?

一回その子が泣いているところに出くわしたことがあつた。体育祭の時。友達にそれとなく聞くと学年種目で負けたのは自分せいだと泣つて泣いているとのこと。

それなのに周りは「オイ、あいつが泣いているよ。」と影でこそこそ言つて笑つていた。

こんな责任感の強い子にあんたたちは罵声を浴びせる氣かと殴りかかりたい衝動に駆られたが私たちは中学生。

虐めなんて軽くしか見てなかつたし虐められている子の味方をしようなんて人たちはどこにもいなかつた。

所詮は皆子供で、人間なんて一人なんだ。

ある日のことだつた、部活が終わり忘れ物をしたため教室に戻ると

その子が泣いていた。

「大丈夫？」

月並みな台詞しか出てこない自分に嫌悪感を抱く。

その子は少し躊躇したように私を見た後

「今まで、頑張ってきたけど時々思うの・・・。『死にたい』って。

「

3年間虐められても虐められても頑張ってきた子が「死にたい」って泣いている。

私には何ができるのだろう。

私だつて同罪で声をかけてあげる資格なんてこれっぽっちもないのに。

けど、私に理由を話してくれたこの子に何か声をかけなければと必死に考えた。

「死にたきや、きちんと生きな。」

その子が顔を上げる。私も驚いた。

なんか凄いこと言わなかつた？

そんな自分を落ち着かせ少しづつ続けた。

「今、死んだらこれから起こる楽しいことみんな味わえないんだよ？この世に辛いことしか残らないんだよ。今まで頑張ってきたんだからもつたといないよ。これから起こる楽しいこと味わうために自殺なんかしないできちんと生きようよ。そして、何年か経つた後もう一回考えてみて、そのときにまだ自殺したい死にたいって気持ちがあるかどうか。多分なくなつてるはずだよ。」

私なりの笑顔を向けるとその子はわっと声を上げて泣いた。

ここには、あなたが泣いたからって影でこそこそ嫌がる人はどこにもいないから。

今だけはこの子に安らぎを。

その後その子は無事私たちと一緒に中学を卒業し、高校生になった。

それからどうなったのかは知らないが元氣でやつていい」とを願おう。

私が今ここで大学生をやつていいよ。

「もしかして・・・」

キャンパス内で声をかけられ振り返ると元氣で明るそうな子が二口二口とした笑顔で立つていた。

「久しぶりだね。中学卒業して以来かな?」

全体的に明るくなつたが面影は変わつていない。

私は、嬉しくなつた。

「久しぶり。」

「久しぶりだね。今考えるとあなたの言つとおりだつた。あれから辛い事もあつたけど楽しいこともたくさんあつた。今考えたら死ななくてよかつたつて思えるし、死にたくない。」

中学時代は見せたこともないような笑顔でふわりと笑つた。

「良かつた。私たちも大人になつたから今度あんなことがあつたらあなたを守つてあげられる。」

「ありがとう、今もあの人たちに会つのは怖いけど少しすつ変わつていけたらつて思つてる。」

「心の傷はなかなか消えないからあなたのペースで良いよ。今度は私があなたの味方になるから。」

「うん。」

桜舞う中私たちはもう一度出合つた。今度は、逃げないよ。お互に助け合つて生きてこいつ。

終わり

(後書き)

会話のお題で「死にたきや あきらかに生きたな」とありますから考えたものです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0614e/>

死ぬなよ

2011年1月13日14時05分発行